

# 第3学年1組 総合的な学習の時間 学習指導案

令和5年11月27日(月)第5校時  
在籍児童数 33名  
場 所 第3学年1組教室  
指 導 者 須田 桃

1 単元名 「へいわな未来をつないでいくために」

2 単元の見どころ

戦争の時代やその時代の生活の様子を知り、疑問を調べていく中で平和について考える態度を養う

3 単元について

## ・児童観

本学級の児童は、1学期に「住みつづけられるまちづくり」を学習し、新座市のキャラクターのゾウキリンや自然豊かな市の特色について調べて友達と伝え合い、自分たちにできることを考えた。また「栄小学校のよいところをじまんしよう」では、栄小の全校児童数や大切に飼育しているうさぎのことなど、栄小の紹介を、他校の児童にオンラインで伝えることができた。それらの学習を通して、調べたことを誰かに伝えたり、相手意識をもってまとめたりすることの良さを感じられるようになってきた。しかし、集めた情報をそのまま友達に伝えたり、自分たちにできることを考えただけで終わってしまったりと、探究していく活動はできていない。

そのため2学期は、国語科で学んだことを生かした平和学習を取り入れていく。集めた情報を整理・分析したり、自分たちで課題を設定し、計画・探究したりしながら、戦争を経験した人の思いや願いに気付かせ、子供たち自身の願いや思いへとつないでいきたいと考えて、本単元を設定した。

## ・教材観

国語科「ちいちゃんのかげおくり」を通して、戦争の怖さ、平和の尊さを読み取ってきた。また「ちいちゃんの時代」の「遊びや、小学校生活はどんなかんじだったのか?」「どうして戦争がはじまってしまったのか。」など「もっと知りたい」ことがたくさん出てきた。そのため、本単元では、戦時中の人・もの・ことに主体的に関わる中で、児童自ら問いを発見する力や答えを探究していく力を高め、自分の思いを表現する力を養っていく。

## ・指導観

本単元を通して、「ちいちゃんの時代」を様々な方法で知ることで、自分なりの課題意識を持ち、多様な見方で問題解決の方法を考え主体的に学習し、平和的な社会をつくる人に育ってほしいと願っている。その中で、より主体的に探究し、体験的に学ぶことができるように、第一次で地域の方の戦争体験のお話や、埼玉県にあるピースミュージアムの出前授業などを設定した。第二次では、調べたことを伝えるためにどうしたらよいか考え、制作・探究の活動へとつなげていく。その過程では、第一次でお世話になった方々にインタビューすることができるよう調整する。第二次では、子供たちがわかったつもり（でもわかっていないこと）を教師が指摘することで、「もっと調べることがある」というハードルに気づかせる。また、実際に自分たちで作った制作物を体験することで、当時の3年生の生活を実感を持って理解させる。第三次では、制作物を、他学年の児童や保護者に体験してもらうことで、客観的な視点で自分達の活動を振り返ることができる。そして、これまでの学習を通して、平和とは「みんなが幸せな世界」＝「自分たちの態度や生き方で平和を維持していこう」と自分事として捉えさせていく。

4 研究主題との関わり

(1) 研究主題・目指す児童像

①研究主題

令和5・6・7年度 新座市教育委員会委嘱研究

**確かな学力を育てる**  
—自ら学びに向かう児童の育成—

②目指す児童像

- ・戦争と平和について他教科で学んだことから興味を広げ、進んで調べたいと課題を見付け、解決しようとする子ども。
- ・課題解決のために、適切な方法を選んで調べたり、必要な情報を整理・分析したりしながら、課題を探究することができる子。
- ・戦争を経験した人や伝える活動をする人の思いや願いに触れることで、対話的に問題を解決し深い学びを実感できる子。

(2) 研究仮説

児童のやる気を引き出す授業を計画し、追究学習を展開することで、自ら学びに向かう児童を育成することができるのではないか。

(3) 本時における研究の仮説に対する具体的な手立て

- ・戦争体験者の話や県内のピースミュージアムの方の話聞く場を設定することで、体験的に戦争と平和に平和について実感できるようにする。
- ・児童がわかったつもりになっていることについて、教師が問い返すことで「もっと調べたい」という必要感を引き出す。
- ・児童が「調べたことを伝えるために表現したい」と思う仕掛けを用意し、主体的に制作・体験活動ができるようにする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>1 戦争の悲惨さや平和の大切さについて理解するとともに、それを伝える取り組みをしている人々の願いに気付くことができる。</p> <p>2 よりよい未来の実現を目指した平和的な態度や行動の変容は、探究的に学習してきたことの良さであることに気付いている。</p>	<p>①平和を伝える活動をしている人々との関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもつことができる。</p> <p>②課題解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集している。</p> <p>③課題解決に必要な情報を取捨選択したり、比較・関連付けたりしながら解決に向けて考えている。</p> <p>④課題解決に向けて、伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ適切な方法で表現している。</p>	<p>①人々の思いや考えにふれ、共感し、自分にできることは何か考えながら活動している。</p> <p>②探究的な体験活動を通して得た知識や自分と違う友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③学んだことを生かして未来に平和をつないでいきたいという希望をもって、課題解決に向けた探究活動に取り組んでいる。</p>

6 単元の指導計画と評価計画

学習活動 (内容)	・指導上の留意点 ○評価計画
<p>・地域の方の戦争体験の講和を聞いて戦時中の生活を知る。(1)</p> <p>・興味を持ったことを本とインターネットで調べる。(4)</p> <p>・調べたことを班で整理・分類する。(2)</p> <p>・ピースミュージアムの出前授業で、実物資料や写真から戦時中の生活を知る。(1)</p>	<p>・東京大空襲を5歳のころに経験した方のお話から、戦争の悲惨さを感じられるようにする。</p> <p>・NHK for school のサイトや中央図書館から借りた本など教師があらかじめ準備しておいた本やインターネットサイトで調べさせる。</p> <p>・分類、整理しながら互いの調べたことを交流させ、新たな気づきを得られるようにする。</p> <p>・ピースミュージアムの方のお話や、ほしいい、黒塗りの教科書などの展示品に触れさせることで、体験的に戦争のない平</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに知ったこと・調べたことを、平和にな未来につなげるためにまとめる。(2)</li> <li>・隣のクラスとまとめたことを伝え合う。(1)</li> </ul>	<p>和な時代の良さや思いを引き出したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「戦争について知ってもらいたい。」という思いのもとに、学年間交流を行い、未来につないでいくためにはどうしたら良いか考えさせる。</li> <li>・互いに感想を言わせて、伝え広げていく良さや平和の良さを感じ取らせる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在と過去の比較をし、どのような未来にしたいか、自分たちにできることを考える。(1) 黒塗りの教科書…「何も勉強できない。」 父親が徴兵…「家族と離れたくない。怖い。」 配給での献立…「これだけ？これを食べるの？」</li> <li>・クラスで何を作るか、題材を6つくらいに絞って決める。(1) 例 「小学校の授業や教科書」 「防空壕」「防空頭巾」「児童服」 「戦争の時代の小学生の生活」「戦争の時代の食事」</li> <li>・「平和をつないでいく栄ピースミュージアム(仮)」を作る。(5)</li> <li>・グループごとに計画書を作る。(本時) 例1 「戦争の時代の食を伝える。」 食事グループ 1 ほいしいのかたさや味を伝えたい。</li> </ul> <p>当時の小学生の給食グループ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 食べていたものや量を伝えて貧しかったことを伝えたい。</li> <li>2 何で伝えるか考える。 →紙芝居・絵・写真…</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画書に沿って制作・探求する。 「ほいしいはどのくらい長持ちするの？どんな時にどのくらい食べるの？おいしいの？」 「防空壕って明かりはあるの？大きさはどのくらい？」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自由に考えが言える」「家族で一緒にいられる。」「毎日楽しく遊び、ご飯がいっぱい食べられる。」「差別や戦争のない平和な世界。」と、子供たちの声を引き出し、平和な今の時代の良さを感じ取らせる。</li> <li>・題材が決まったら活動しやすい人数のグループに細分化する。</li> <li>・よりよい未来について考えさせ、戦争について知ったことを伝えて「平和をつないでいくために」自分たちにできることは何か個人→グループ→全体に共有させる。</li> <li>・「実際に体験できるようにしたらどうか。」と投げかけ、制作・体験の学習につなげていきたい。</li> <li>・制作するにあたって計画書を作らせて、よくわかっていないところに気付かせる。</li> <li>・「何のために伝えるのか？」→「目的を考えないと…」</li> <li>・「当時の人はどうしてほいしいを作っていたのか。」→「くふうや理由も調べたいね。」</li> <li>・より深く探究できるように、児童同士で質問させたり、教師が切り返す発問をしたりしていく。</li> <li>・戦争体験のお話をしてくださった方や、ピースミュージアムの方と電話でつながれるように調整しておく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄ピースミュージアムに栄っ子を招待し、感想をもらう。(1)</li> <li>・札幌栄小に報告する。(1)</li> <li>・単元のまとめ、振り返りをする。(1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習を振り返ることで、自己の成長を自覚し、今後の学習や生活に生かせるようにする。</li> </ul>

## 7 本時の学習指導 (15 / 22時)

(1) 自分たちの表現したいことを具体化していき、次の時間に活動することの見通しをもつことができる。



11月27日

栄小ピースミュージアムの計画書を作ろう。

### 活動の流れ

- ①かくにん
- ②自分・グループで考える
- ③考えを広げる
- ④ふりかえり

### 計画書

## 8 資料

### ①振り返りカード

#### ふりかえりカード

名前 ( )

○最後まで協力して計画書を作れましたか。

( とても◎ ・ だいたい🐱 ・ あまり☺ ・ まったく😞 )

○あなたの栄小ピースミュージアムのコーナーは、良いコーナーになりそうですか。

( なりそう◎ ・ まだまだ😞 )

○今日の授業の感想を書きましょう。

### ②計画書

メンバーの名前 ( ) ←

○作るもの ←

○作るものの せっけい図を かこう ←

じゅんびするもの ←

かんせい図 ←

作り方